令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　浅川　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

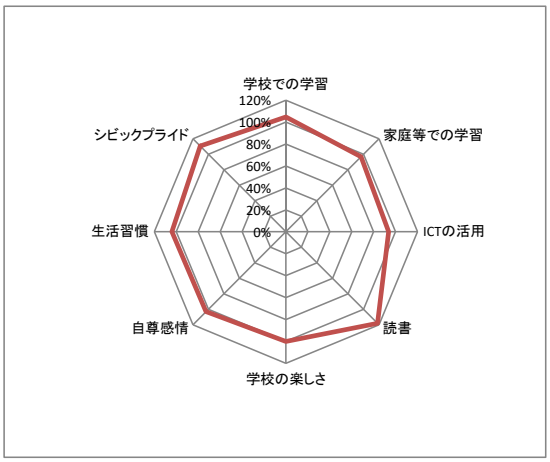
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	半数以上の項目で平均正答率が全国平均、県平均を上回ったが、思考・判断・表現の項目の正答率が全国や県を下回った。また、記述式の問題では無回答率が高い傾向がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうか選択肢から選ぶ問題 ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題 ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	半数以上の項目で平均正答率が全国平均、県平均を上回ったが、知識・技能の項目で全国と県の正答率を下回った。また、記述式の問題では正答率が全国平均を上回ったが、無回答率も高く、二極化している傾向がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題	
	努力が必要な問題	・空間における平面が同一直線上にない３点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題 ・問題場面における考察の対象を明確に捉える問題	

英語	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの項目の平均正答率が全国平均、県平均を上回った。特に書くことの領域のすべての項目で全国と県ともに正答率を上回った。記述式の正答率は全国平均を上回ったものの、正答率よりも無回答率の方が高い結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る問題 ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る問題	
	努力が必要な問題	・情報を正確に読み取る問題 ・社会的な話題について、短い説明の要点を捉える問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

【学びの育ち】
○授業で、「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいたか」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできているか」という問いに、約８５％が肯定的に回答していた。しかし、「授業時間以外にどれくらい勉強するか」、「ICT機器の活用は勉強の役に立つか」という問いへの肯定的な回答の割合がやや低かった。
○今後もICTを有効に活用したり、生徒同士の交流の機会を増やしたりして、表現力の向上を目指して授業改善を進める必要がある。
【心の育ち】
○「自分にはよいところがあると思うか」という問いへの肯定的な回答の割合は高かったが、「役に立つ人間になりたいと思うか」という問いへの肯定的な回答の割合はやや低かった。今後も自尊感情を高める取組を進める必要がある。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学力調査では国語科、数学科、英語科の全教科において、本校の正答率が全国平均を上回っているが、どの教科も記述式の問題で無回答率が高いことが課題として明らかになった。書いて表現することに意欲が持てるよう、タブレットを活用した意見交換や、話し合いや発表の機会を設定するなど授業改善をし、支援を続けていきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・今年度も小学校の内容から復習できる学習アプリ『キュビナ』を導入しており、適宜課題を出している。家庭学習の一つとしてタブレット学習が定着するよう家庭におけるタブレットの利用や家庭学習の必要性について保護者に理解をいただき、学習内容の定着が図れるよう啓発する。